

## ご挨拶

私たちの政策提言書が、皆様にお届けできることを心より嬉しく思います。

この提言書は、単なる「文書」ではありません。私たち一人ひとりが未来を見据え、津山という地域に対する「愛」と「覚悟」を込めた、魂のこもったメッセージそのものです。

私たちは今、大きな変化の時代を生きています。人口減少や少子高齢化、グローバル化による競争激化、そしてデジタル化の急速な進展。それらの波が津山にも押し寄せ、私たちの生活やビジネスのあり方を大きく揺さぶっています。しかし、私はこの変化を「危機」ではなく「機会」と捉えたいと思っています。なぜなら、変化は常に成長の種を運んでくるからです。そして、この種をどのように育て、地域の未来をどう形作っていくかは、私たちの行動と意志にかかっています。

私たち YEG の存在意義は、まさにここに 있습니다。青年世代が地域の未来を真剣に考え、行動を起こす。その姿勢こそが、地域の希望となり、新たな可能性を切り開く原動力になると信じています。

政策提言書の作成を通じて、私たちは改めて「未来の津山とは何か」「私たちに何ができるのか」を問い直しました。そして、その答えはいつも同じ場所にたどり着きました。それは、「地域の人々と共に進む」という想いです。未来の津山は、私たち一人ひとりの手の中にあります。それは行政や企業、団体といった単体の力で実現できるものではなく、地域全体が一丸となり、共に汗をかき、共に喜びを分かち合うことでしか達成できません。私たちは「一歩前へ進む」ことを恐れませんが、その一歩が次の一歩を生み、やがて大きな流れとなることを信じています。

最後に、これまで津山を支えてこられた先輩方、そして現在の津山を形作るために日々努力されているすべての皆様に深く感謝申し上げます。私たちはその思いを引き継ぎ、さらに新たな未来を描くために行動してまいります。

この政策提言書が、津山という地域に新たな風を吹き込み、多くの方々と共に前進するための一助となることを願っています。未来を共に創りましょう。

それが、私たち津山商工会議所青年部(YEG)の使命であり、誇りです。



令和6年度 津山商工会議所青年部  
第34代会長 石川 哲也

# 津山商工会議所青年部 令和6年度政策提言

## 目 次

▶ ご挨拶	1
▶ はじめに	3
▶ 提言	
I 津山の観光 春夏秋冬での提言	
提言① 「春」 花桃の植樹	4
提言② 「夏」 花火大会の駐車場有料化	7
提言③ 「秋」 津山を歩こう～イベントとの相乗効果～	9
提言④ 「冬」 津山のお鍋グランプリ開催	11
II 津山の経済 活性化への提言	
提言① 税制政策の具体化に向けた「統計調査と活用」	13
提言② キャッシュレス決済のポイント還元を活用した「域内消費」の増加策	14
▶ あとがき	17
▶ 令和6年度政策提言委員会メンバー / 過去の政策提言書	18

### ▶ 取材協力先一覧

#### ■長野県阿智村

里づくり委員会実行委員長 渋谷 久利 様  
園原の里観光組合役員 渋谷 秀文 様

#### ■津山市

企画財政部みらいビジョン戦略室 / 税務部税制課 / 税務部課税課市民税係  
税務部課税資産税土地係 / 税務部課税課資産税家屋係 / 観光文化部観光振興課  
観光文化部歴史まちづくり推進室 / 観光文化部文化課文化振興係  
都市建設部都市基盤整備課公園係

## 『津山の観光 春夏秋冬での提言』



## 『津山の経済 活性化への提言』

### ▶ はじめに

津山市は、豊かな自然環境と歴史的文化に恵まれ、四季折々の美しさが人々を魅了する都市です。しかしながら、近年の観光需要の変化や地域経済の課題に対応するためには、これまで以上に「効果的な観光政策」と「持続可能な財政基盤を築くための新たな政策」が必要とされています。

本提言書では、年度初めに津山市との意見交換会『つやまの風会議』を開催し、そこで交わされた市の観光や税制についての情報や意見も参考に、「春」「夏」「秋」「冬」それぞれの季節ごとに津山市の観光資源を最大限に活かすための具体的な施策や地域経済の活性化に寄与する政策の調査、新設についても検討し、提言しております。

そして私たちは、津山市がこれからも全国的に魅力的な観光都市として発展し続けるために、観光と経済活性化が相互に補完し合う形で「持続可能な地域づくり」を実現することを目指しております。

本提言書が津山市の発展の一助となることを期待し、ここに提言をさせていただきます。



令和6年度 津山商工会議所青年部  
政策提言委員会 委員長 田中 康嗣

# I 津山の観光 春夏秋冬での提言

## 提言「春」 花桃の植樹

津山観光産業の特色をより延ばし、さらなる集客に向け、新たな観光資源を創出することを提言します。

### 1. 現状の確認と課題の把握

「令和6年度津山市観光動態調査結果報告書」によると、「春はつやま」と謳われるとおり、津山市の春季の観光客数は一年を通して一番多く、「津山さくらまつり」が開催される津山城(鶴山公園)への観光客数は桜の開花をピークに約2週間という短期間の間に、全国より約11万人もの観光客が訪れていることがわかります。また、その期間の観光客数について、4月1日から4月7日の計7日間では延べ69,441人(下表)と期間全体の約6割の観光客がこの約1週間に集中していることが窺えます。

そして、津山に訪れる観光客の消費をさらに増やす為には「観光期間・滞在期間」を延ばす施策を考え、更なる「集客・消費促進案」が必要だと感じます。

参考：都道府県別内訳(岡山県内36.8%、広島県/兵庫県13.0%、大阪府からは7.8%)

#### 【2023年津山さくらまつり期間中の津山城・鶴山公園来場者数】

	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日
来場者数	4,068	6,288	716	4,735	8,970	23,157	21,507
桜開花状況	三分咲	五分咲	五分咲	七分咲	満開	満開	満開

2023年観光動態調査【春期】概要版結果報告書

### 2. 春の提言「花桃の植樹を行い、観光期間を延ばす」

津山の観光産業で1番のシーズンである「春」の観光期間を延ばす事で、津山に訪れる「観光旅行者の増加」や「観光期間・滞在期間の延長」を目的とした提言をいたします。

開花時期の異なる「花桃」を植樹することで、桜の開花ピーク後に花桃の開花ピークが繋がり、約2週間の観光期間を最大4週間程度に延ばすことができ、さらなる観光集客・観光消費に繋がると考えます。(下表参照)

「桜」は、開花時期が通常、3月下旬から4月中旬にかけて開花します。

「花桃」(※)は、開花時期が通常、4月上旬から4月下旬にかけて開花します。

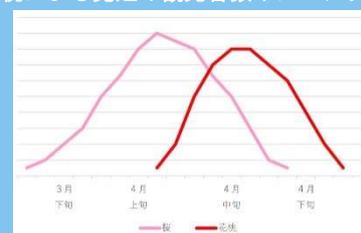
※花桃について Wikipedia より抜粋

桜の開花のピーク後に開花の最盛期を迎える。花を觀賞するために改良されたモモであり、その花は艶やかなピンクや赤、白の花が咲き、見る人を魅了します。

#### 【桜と花桃の開花時期】

	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬	5月上旬
桜						
花桃					延長期間	

#### 花桃による見込み観光客数イメージグラフ



※花桃が成長し観光名所となった場合

### 3. 花桃を観光の目玉としている阿智村へ現地視察

当委員会では、2024年4月に長野県阿智村にある「花桃の里」を視察に赴き、現地の関係者へ取材を行いました。

日本一の桃源郷と呼ばれる阿智村では、「はなもも街道」という名所に赤・白・ピンクと三色に彩られた約10,000本の「花桃」が計画的に植樹され、それを目的に開花シーズンには日本全国から約20万人以上の観光客があり、多くの人を魅了している。また、宣伝に関しては口コミを主としており、チラシや観光案内のみとそれ以外はほとんど行っていないということです。

#### 長野県阿智村 花桃の開花シーズンの風景



撮影：2024年4月23日

### 4. 課題と解決策

「さくら+花桃」モデルを実現するにあたり多くの課題も見えてきます。

- ・植樹する場所が少ない

- a) 市内の公園や公民館、幼稚園、小・中学校などで植樹

### 5. 実現に向けての取り組み

当会では、2024年11月11日(月)に「YEGの日」の事業として、津山市へ花桃の苗木9本を贈呈し、グリーンヒルズ津山の一区画に植樹を行いました。

将来的に「花桃」が「さくら」に続く津山市の新たな観光の目玉になる事を期待しています。

#### 津山商工会議所青年部「YEGの日」事業 花桃の贈呈式/植樹セレモニー開催



津山 YEG 石川会長と谷口市長による植樹



津山 YEG 集合写真

撮影：2024年11月11日

## 春-まとめ

当委員会では、津山市の「春」の観光産業をさらに促進し、観光客数を増加させるための新たな観光資源として“桜”に続く、開花時期の異なる“花桃”という植物に着目しました。

そして、当委員会では花桃の開花の最盛期にあたる4月に、全国で有数の花桃の観光地であり、地域経済の発展や地域コミュニティの活性化を実現し、町の人口をはるかに越える観光客の集客に成功した長野県下伊那郡阿智村の「花桃の里」へ視察に赴きました。

“日本の桃源郷”と呼ばれる通り、地域全体で約10,000本の花桃は白・桃色・赤色に色づき、艶やかな色彩を放つその光景に訪問者全員が大いに魅了されました。実際に、その壮大な花桃を目の当たりにしたことで、その魅力は津山市の“桜”に続く観光資源として必ずや、春の観光集客期間の延長に繋がると、経済効果をもたらすものであると確信しました。

その第一歩として2024年11月11日には、当会事業として津山市へ花桃を寄贈し、広大で緑あふれる公園“グリーンヒルズ津山”の一面に9本の花桃の植樹の実現が叶いました。この小さな9本の苗木が数年後には園内でもひとときわ艶やかな色彩を放ち、公園を訪れる来場者全員を魅了していくと期待しております。

そして、将来的にグリーンヒルズ以外の市内南から北に至るまで、市内各地で花桃を植樹していき、4月には豪華絢爛に咲き誇る“桜”と併せて、彩り豊かな“花桃”の情景を醸し出す県内有数の観光地とすることで、県内外の観光客をさらに集客し、観光産業の発展や津山市全体の経済の活性化の一助になると考えます。

### 花桃の未来開花予想図



## 1. 現状と課題

毎年夏、市内外から多くの人々が津山市を訪れるイベントと言えば花火大会です（津山納涼ごんごまつり、塩手池サマーフェスティバル、かもの夏まつり、阿波ふるさとふれあい納涼星空祭り）。いずれの花火大会も運営コストの上昇や駐車場不足、交通渋滞が毎年課題となっています。全国各地の花火大会でも同様の課題がある中、IT技術を使って課題解決に取り組む自治体、運営団体も増えています。

## 2. 夏の提言「花火大会の駐車場有料化」

前述の花火大会の開催時に従来の駐車場に加え、公共施設などの臨時駐車場を有料化し、それらを管理する専用アプリを導入することを提言します。

※ 駐車場管理アプリ：駐車場の検索、事前予約、清算ができるアプリ。

今回は全国各地の花火大会の駐車場を管理した実績のあるアプリ「akippa(アキッパ)」の活用例を紹介します。

akippa の仕組みとアプリ予約画面 図 1

◎ 城南小学校・諏訪市役所 会場まで約1.3km 徒歩 約18分	軽・普通車	5,000円 >
◎ 上諏訪小学校・中学校 会場まで約1.4km 徒歩 約20分	軽・普通車	5,000円 >
◎ 県諏訪合同庁舎 会場まで約2.1km 徒歩 約30分	軽・普通車	5,000円 >

出典：諏訪湖祭花火大会公式有料駐車場

## 3. 導入例「アプリを活用した駐車場有料化のメリット」

### 1) 効率的な駐車場管理

アプリを使うことで駐車スペースの事前予約やリアルタイムの駐車場状況が可能になります。また、会場周辺での駐車場探しの混雑緩和、スムーズな駐車が実現します。

### 2) 収益化の透明化

アプリを通じて駐車場料金がオンラインで決済でき、現金管理のリスクが減少します。

また、運営側も効率的に収益を把握可能となります。(売上の約7割がオーナー収益 約3割がアプリ手数料)

このように駐車場管理アプリの導入は運営の効率化、収益の最大化、安全性の向上、そして顧客満足度の向上に大きく貢献すると考えます。

## ■津山納涼ごんごまつりで考える駐車場有料化の試算

2023年から無料で開設しているごんごまつりの無料の臨時駐車場は、例年多くの利用者があり、特に花火大会当日の会場周辺の駐車場は満車となりました。(下図参照)

2024年ごんごまつり臨時駐車場利用状況 図 2

No.	名称	駐車台数	利用台数	利用率	借用時間		警備員 配置数	備考
					開始	終了		
1	美作県民局 職員駐車場	38	不明	不明	15:00	22:00		
2	津山東高等学校 駐車場	90	不明	不明	16:00	22:00		
3	津山市立南小学校 グラウンド	100	130	130.00%	16:00	22:00	1	
4	津山市立西小学校 グラウンド	100	94	94.00%	15:00	22:00	2	
5	出雲大社美作分院 駐車場	100	160	160.00%	15:00	22:00	2	
6	水田皮膚科 周辺駐車場	120	120	100.00%	15:00	22:00	3	
7	やっこ薬局	15	15	100.00%	15:00	22:00		
8	マルイ 配送センター跡地	100	21	21.00%	15:00	23:00	2	最寄り駅：院庄駅
9	ケーズ電気 第2駐車場	85	75	88.24%	15:00	22:00	2	最寄り駅：東津山駅
10	衛生処理組合 グラウンド	100	不明	不明	16:00	22:00		最寄り駅：東津山駅
11	緑水園文化体育館 グラウンド	100	34	34.00%	15:00	22:00	3	最寄り駅：東津山駅
12	久米支所 駐車場	139	不明	不明	15:00	22:00		最寄り駅：美作千代駅
13	Sマート跡地	100	34	34.00%	15:00	22:00	2	最寄り駅：院庄駅
14	中島病院 第2駐車場	25	不明	不明	15:00	22:00		
15	津山市役所前駐車場	130	不明	不明	0:00	22:00		
16	井口公園	80	不明	不明	15:00	22:00		
17	中央公民館グラウンド	50	不明	不明	15:00	22:00		

出典：第46回津山納涼ごんごまつり IN 吉井川事業報告書

### ・臨時駐車場有料化の収益予測 (駐車料金は他の花火大会の料金設定を参考)

※ 会場から1km圏内の駐車スペースを駐車料金：3,000円で設定した場合

南小学校、出雲大社、水田皮膚科、市役所前など11か所 計932台分：約279万円  
 アプリの手数料は約3割なので、約195万円の収益が見込まれます。(警備費など除く)

また、他の駐車場スペース(旧作陽高校跡地、会場周辺の空き地など)を確保すれば更なる収益化が期待できます。

## 夏-まとめ

アプリを活用した臨時駐車場の有料化は、様々な課題を解決し、花火大会を持続可能なものとするカギになると考えます。そこで得られた収益金は津山市の補助金や駐車場警備費などに充て、花火大会の運営費確保に役立つことが期待されます。

また、花火大会に限らず、2024年8月に開催されたB'z稲葉浩志さんの凱旋ライブなど、津山市に多くの人が訪れるイベント時もアプリを使った臨時駐車場の有料化は有効であります。

引用元/資料

図1: 駐車場予約のakippa(あきっぱ)ホームページより <https://www.akippa.com/guide/start>

諏訪湖花火大会有料駐車場予約サイト <https://www.akippa.com/suwakohanabi/>

図2: 第46回津山納涼ごんごまつり IN 吉井川事業報告書 駐車場問題について

## 1. 現状の課題

津山市では既に様々なウォーキングイベントが実施されていますが、参加者層が限定的で、若年層や運動習慣のない層へのアプローチが不足しています。また、他市、他県の参加者の想定は無く、地域観光資源との連携が弱いため、経済の活性化に繋がる仕組みが乏しいことが課題です。

## 2. 秋の提言内容

- 1) 「ポケモン GO イベント」の開催誘致



- 2) 「街全体を使ったウォークラリー」の開催

「歴まち & ポケモン GO」コラボイベント

国土交通省 x Niantic コラボ  
地域の魅力・歴史的建造物を『Pokémon GO』で再発見！

国土交通省の「新たな切り口で地域固有の歴史文化の再認識や親しむ機会を提供」と、Nianticの「ソーシャルインパクト」（世界中の様々な、誰かにとって大切な「場所」に貢献する活動）がコラボし、『Pokémon GO』の新たなポケストップやジムの設置を通じた地域固有の歴史文化の紹介活動が展開されています。

- 全国の「歴まち認定都市」と連携
- 対象のポケストップには、「建造物の説明」や「歴まちロゴマーク」が表示され、各都市の歴史まちづくりの取組や魅力を紹介するホームページ「歴まち情報サイト」へアクセスできる
- 今後、全国の「歴まち認定都市」へ本取組を波及させ、歴史まちづくりを盛り上げていく予定

出典：ポケマビ HP

## 3. ウォーキングイベントの事例

### 事例1 「ポケモン GO の舞台としてのウォーキングイベント例」

人気ゲーム「ポケモン GO」の舞台として日本各地(下表)で開催されているウォーキングイベントであり、日本のみならず海外からの参加者を見込め、大きな経済効果が期待できます。

これらを歴史的建造物を有する津山市で、その歴史的文化に触れながら楽しめるウォーキングイベントの開催を提言します。

また、国土交通省では、新たな切り口で地域固有の歴史文化の再認識や、親しむ機会を提供するため、ポケストップによる歴史的建造物を紹介する取組を進めています。

第1弾 (R3.11)	神奈川県小田原市
第2弾 (R5.4)	静岡県三島市、和歌山県広川町、広島県尾道市、愛媛県内子町、福岡県太宰府市
第3弾 (R5.5)	秋田県横手市
第4弾 (R5.7)	福島県国見町、静岡県浜松市、滋賀県大津市

開催地は「歴まち認定都市」の中から選出され、日本全国に97都市(40府県)あり、岡山県では「津山市」と「高梁市」の2市のみ認定されています。(R6.7.17時点 国土交通省 HP より)

2つの重要伝統的建造物群保存地区(城東/城西地区)を有する「歴まち認定都市」津山市は、次なる開催地候補としての展望はあると思われます。

## 事例 2 「街全体を使ったウォークラリーの開催」

兵庫県福崎市では 2013 年度より街全体を使ったスタンプラリーを開催しています。内容としては町内の施設や店舗前などに妖怪スポットを設け、市内の広範囲に点在する多くのスポットを回るウォークラリーです。

観光客数については初開催の 2013 年度には 24 万 8 千人、2016 年度には 41 万 5 千人、昨年度は 70 万人を超え、10 年で約 3 倍に増えており、ウォークラリー開催による観光活性化への寄与は大きいと思われる。

福崎市は津山市との地形や規模が近いうえ、河童など妖怪伝説のある津山市での開催も可能であると考え、観光客誘致の期待値は高いと言えます。

## 秋-まとめ

今回提言する「ポケモン GO の舞台としてのウォーキングイベント事例」は、実現すれば中国地方では 2 カ所目となり、津山市の歴史的観光資源を活用しながら、市民の健康促進と郷土愛の醸成、各イベント開催による観光誘致による地域経済の活性化を同時に実現することが期待できます。

次に「街全体を使ったウォークラリーの開催」については、津山市において持続可能なイベントとなり得る可能性を秘めた内容であり、一過性の盛り上がりではなく 10 年後、20 年後の将来的な観光促進に寄与します。

以上を、他の自治体の成功事例を参考に、秋の提言として津山市で可能な新しい取り組みを提言いたします。

### スポット候補地



画像出典：全国伝統的建造物群保存地区協議会 HP

## 1. 現状の課題と提言に至った経緯

2009年に開催された「B-1グランプリ」においてブロンズグランプリ、2011年にはシルバーグランプリに輝いた「津山ホルモンうどん」は一気に全国区となり、全国各地より多くの観光客が津山を訪れるきっかけになりました。十数年経った現在でも、パンフレットに載っている有名店には週末の行列が絶えません。津山市民から見れば当たり前の郷土料理も、ちょっとしたきっかけでブレイクすることがあるのです。

その経済効果は大きくピーク時には津山市内で12億円、岡山県全体では27億円もの経済的需要を産んだ。 ※1 平成22年度岡山県公表より

津山市の観光最盛期は春であり、夏から秋にかけてやはりホルモンうどん目当ての観光来客が多い傾向にあります。

一方冬季は、ウインタースポーツが可能な山間地域や温泉観光地が挙げられます。これらの観光資源が乏しい津山市にとって、冬季集客の目玉こそが観光成長のカギと言えます。

そこでこの度は津山の郷土料理の中もお鍋料理に焦点を当て、身も心も温まるお鍋のグランプリ開催を提言し、冬季の津山市への観光誘致、郷土料理の発信が出来ると考えます。

## 2. 冬の提言内容

津山の名物を取り入れたお鍋グランプリの開催

### つやまのお鍋グランプリの構想案

#### 【開催概要】

趣 旨：津山市の郷土料理を他市、他県、全国各地にPRするべく開催します。また、それらを定着させることで冬季の観光客の増加、郷土料理の周知に寄与します。そして、出店者は上位に入ることで自店のPRができ、美味しさの見える化の実現が可能になります。

会 場：鶴山公園 三の丸広場

日 時：1月初旬

形 式：屋台、キッチンカー

料 金：一律金額



#### 【想定される鍋料理】

そずり鍋/ホルモン鍋/  
ケンケン(きじ)鍋/津山和牛  
すき焼き/黒豚しゃぶしゃぶ/  
タンしゃぶ/キムチ鍋/千恵鍋  
など

## ■市内と全国各地のグルメイベント(抜粋)

	名称	開催時期	会場	継続年数
市	牛魔王選手権	5月初旬	鶴山公園 三の丸広場	7年
	作州津山鍋まつり	11月1日～1月31日	津山市内加盟店	23年
県外	ふるさと鍋まつり	1月下旬	東京都 墨田区 墨田公園内	初開催
	NABE-1 岡崎城グランプリ	1月初旬	愛知県 岡崎市	不明
	ニッポン全国鍋まつり	1月下旬	全国各地(埼玉県和光市発)	15年

2024年11月時点

### 全国各地のグルメイベントのチラシ



出典：各公式HPより

## 冬-まとめ

現在の津山市が取り組んでいる冬の企画として『作州津山なべまつり』がある。この企画は期間中に加盟店で津山市の郷土料理「そずり鍋」をはじめ、様々ななべ料理を食べることで、抽選で商品や食事券が当たる内容の企画です。期間が2ヶ月あるのでイベント感はやや低く、盛り上がりの実感に欠ける印象です。

この度提言する『つやまのお鍋グランプリ』は春の『牛魔王』のように開催日を決め、加盟店を一堂に集め、大きな賑わいを実感できる企画だと考えています。

見事グランプリに選ばれ優勝した店舗は自信の味覚、魅力を周知することが出来ます。そして来場者の中には他市、他県から来た観光客も含まれていますので、新しい津山の郷土料理の発信に寄与します。

埼玉県和光市から始まった『ニッポン全国鍋グランプリ』は来場者数11万5千人を超える規模の催しであり、会場での消費や近隣駐車場、宿泊施設に及ぼす経済効果は計り知れません。

引用元/資料

※1: 岡山県 ご当地グルメ経済効果調査事業 調査報告書

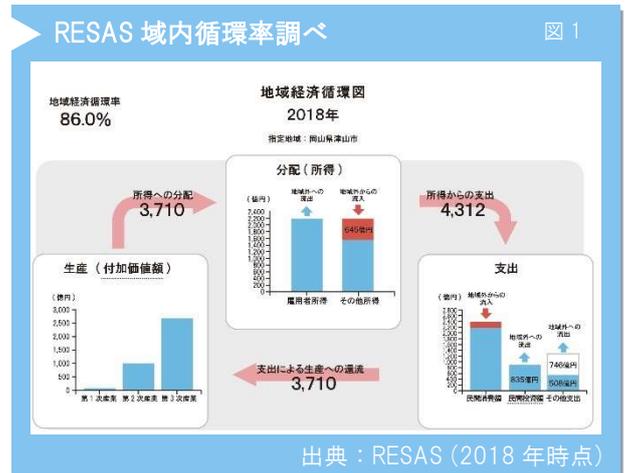
## Ⅱ 津山の経済 活性化への提言

### 提言 ① 税制政策の具体化に向けた「統計調査と活用」

当会では津山市民全員が将来的にも住みよい津山市となるためには、有益な税制対策などを実現することこそが地方創生や地域の活性化につながると考え、まずは手始めに関連する統計データを集め、下記の通り分析や課題を模索しました。

前提として図1で示す通り、地域経済分析システム (RESAS:リーサス)の地域経済循環に関する統計データにおいては、津山市の域内循環率は86.0%(2018年時点)となっておりますが、個人や法人、業種別等に絞った統計データはなく、より詳細な域内循環率は分かっておりません。

また RESAS の示す 86.0% という数値が、“高いのか” “低いのか” 岡山市や東京都と比べれば低いことが分かりますが、域内経済循環率 86.0% と示されると、一見して “高い水準” と捉えてしまう可能性もあります。

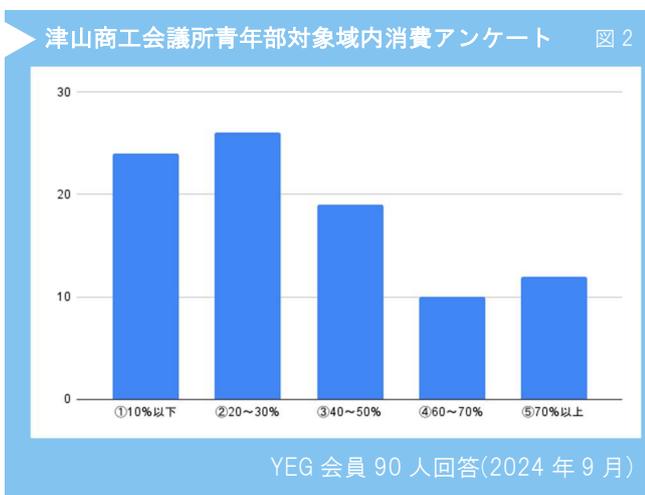


(参考:岡山市 97.3%、岡山県 96.8%、東京都 153.9%)

仮に、個人消費に的を絞り、津山市内での消費とした場合、我々は日常生活で津山市内に本社を置く(つまり津山市へ納税している)企業や飲食店、小売店で1ヶ月の給料のうち、どれだけの割合を消費しているでしょうか?

都市部に本社がある大手の小売店、飲食店等、また各種 EC サイトでのネットショッピングは、全て “域外消費” です。果たして自身の所得のうち 80% 超も地元で消費をしているでしょうか? また、2024年時点では2018年時点の調査結果より、更に減少していると予想されます。

しかし、RESAS 以上の詳細データがありませんので、政策提言委員会では甚だ簡易ではありますが、青年部会員 90 名に域内消費に関するアンケート調査を実施しました。それが図2の結果です。



アンケート結果の示す通り、個人消費の域内循環率は 37% 程度であると想定されます。実際には誤差があると思いますが、RESAS の 86% とは大きな乖離が見られました。

結論として経産省と内閣官房デジタル田園都市構想が提供しているデータだけでは、地域ごとの詳細なデータは把握できず、実効性の高い地域独自の税制政策を立案、実行するには、不十分と考えます。

そこで、津山市独自に個人や法人、業種別に絞った調査を行い、市民にも広くデータを開放して頂きたいと考えます。そして、より詳細な統計データが

あれば、それに基づいた「より有益な地域活性化策の議論、政策提言」ができ、多くの市民と地域の課題が共有でき、地元企業での消費喚起に繋がります。

## 提言② キャッシュレス決済のポイント還元を活用した「域内消費」の増加策

提言①の情報を基に、我々は津山市内の域内個人消費を増加させる政策を提言します。

それは「キャッシュレス決済を使ったポイント還元キャンペーン」です。

今回の政策提言では、具体的には「J-Coin Pay」という決済アプリを活用した事例を紹介致します。但し、J-Coin Pay はあくまで一例であり、活用を特に推奨する意図がある訳ではないことを事前にお断りしておきます。

### 1. 還元策として、なぜ紙のクーポン券や現金でなく、決済アプリを使用するのか？

- ① 紙のクーポン券は印刷や保管の手間などが発生するため。
- ② 現金給付は給付負担業務や域外流出の課題があるため。
- ③ 紙のクーポンの場合、市外在住者は利用がしづらく消費活性化効果が限定されるため。

### 2. なぜキャッシュレス決済の活用例として「J-Coin Pay」を選定したのか？

- ① J-Coin Pay は全国各地で使用でき、銀行口座とも紐づけがされており、汎用性が高いため。  
※地域限定の独自アプリは初期導入コストが高く、また特定地域以外で使用ができないため、汎用性が低く、利用者が増えない(ダウンロードされない)可能性がある。
- ② J-Coin Pay は他の大手決済アプリと違い、還元したポイントの使用先を津山市内の店舗のみ等、狭い範囲の特定先に限定することができるため。
- ③ 加盟店数は大手決済アプリに劣るが、「銀行口座とアプリ間の入出金」「個人間の送金が即時、手数料無料で行える」「現金での集金や割り勘を簡単にアプリへ移行できる」等、利便性が高いため。

### 3. 加盟店側(企業・個人事業主等)のデメリットについてどう考えるのか？

#### ① 加盟店手数料

手数料は発生し、域外へ流出しますが、J-Coin Pay の加盟店手数料は、現状 1.6%程度(取扱金融機関により多少異なる)と、平均 2%超の他の大手キャッシュレス決済に比べ割安です(表 1) また、約半分はアプリ提供元のみずほ銀行に入りますが、残りの約半分は、全国の提携金融機関(加盟店申込金融機関)に入り、少なくとも都市部へ全て流出する他の決済とは異なります。

#### ② 資金回収の期間ロス

売上入金には J-Coin Pay が 3 回/月、他の決済は 1 回/月と回収期間が短期です。

また、現金回収(金券・紙クーポン等含む)の場合、随時回収は可能ですが、一定額を集めて、金融機関口座へ入金するまでに、集計ミスや紛失・盗難のリスク、経理事務員の人件費負担、銀行までの輸送コスト等々、場合によっては回収期間のロス、加盟店手数料以上の費用負担が発生する可能性があります。

### 【主要なキャッシュレス決済の比較】

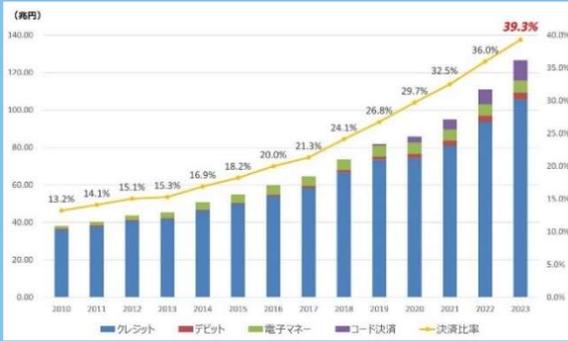
表 1

	ユーザー数	加盟店店舗数	提供元	入金回数	手数料(%)	特徴・強み
J-Coin Pay	84 万人	140 万	みずほ銀行	3 回/月	1.6	ポイント還元先を限定できる。
PayPay	6,500 万人	1,000 万	ソフトバンク・ヤフー	1 回/月	1.98	ユーザー数、加盟店数が多い。
楽天 Pay	4,400 万人	600 万	楽天	1 回/月	3.24	
d 払い	5,970 万人	528 万	NTT ドコモ	1 回/月	2.6	
au Pay	3,438 万人	662 万	KDDI	2 回/月	2.6	

政策提言委員会調べ 9 月末時点

国内キャッシュレス決済額及び比率の推移

図 3



出典：経産省 HP

4. 「J-Coin Pay」を使ったポイント還元キャンペーンの具体例

事例 1

鳥取県米子市の「よなごプレミアムポイントキャンペーン (第二弾)」では、米子市内の対象加盟店でキャンペーン期間内 (2024年2月15日～) に J-Coin Pay 支払いをした個人を対象に、決済総額の 10%、最大 10,000 円分のポイントを還元するキャンペーンを実施しています。

市内在住の方に限らず、J-Coin Pay アプリを持ってさえいれば、誰でもキャンペーンに参加が可能であり、域内消費の活性化に加え、域外からの消費 (観光客) も呼び込むことが可能となります。

これにより米子市に納税している企業や店舗の売上・利益が増加し、法人税等自治体が受け取る税収が増加します。また市民はポイントという形で還元が受けられ、市民も事業者も行政も、三方が利益を享受しつつ、域内消費を積極的に行うという好循環が生まれます。

※ 米子市の加盟店数 約 1,600 店 (R5.7.25 時点)

※ 米子市内の J-Coin Pay ユーザー数 約 16,300 人 (R6.4 時点) (参考:R5.7 時点では 4,600 人)

米子市のポイント還元キャンペーン事例



【概要】

キャンペーン期間中、米子市内の対象店舗にて J-Coin Pay でお支払いいただくと、お買い物金額の 10% 分の J-Coin ボーナス (上限 10,000 円分) (一部抜粋)



出典：米子市 HP

事例 2

群馬県高崎市の「高崎通貨」は J-Coin Pay のボーナス機能を利用して交付される 市内限定 で利用可能な電子地域通貨であり、「中小企業就職奨励金」や「出産・子育て応援ギフト」等を「高崎通貨」で交付します。そして、交付を受けた「高崎通貨」は市内の J-Coin Pay 加盟店限定で利用可能です。また、交付を受けた「高崎通貨」を他者に譲渡することや現金として出金することはできず、施策

群馬県高崎市の事例



群馬県高崎市の出産・子育て応援交付金事業にて J-Coin Pay を活用した高崎通貨での支援サービス給付が開始

出典：高崎市 HP

ごとに有効期限も設定されています。

このように現金支給の場合、奨励金や給付金等が域外消費に使用される恐れがありますが、自治体ごとの判断で使用先を地元企業に限定をできることを活用し、域内循環率を高めることができ、市民・地元企業・行政の三方にメリットのある施策が実現可能となります。

#### 4. J-Coin Pay 以外の最近の地域通貨取り組み事例

最近では J-Coin Pay の活用以外にも、自治体独自のデジタル地域通貨導入が広がっています。名古屋市で発行されている「金シャチマネー」や出雲市で発行予定の「いずも縁結び PAY」は、三菱総合研究所が構築したシステムを導入し、利用者が専用アプリで地域通貨やポイントなど各種サービスをワンストップで使えます。このシステムは自治体や店舗が、簡単に地域通貨やポイントサービスを導入できるものであり、自治体などは自前でシステムを構築する必要が無く、導入のハードルは低くなっています。そして、このシステムを一度構築すれば複数の事業を束ねることができ、且つそれらを継続的に取り組むことが可能となります。これまで単一事業・単年度・単体で実施されてきた“地域商品券”“子育て給付”“加盟店ごとのオリジナルポイント”“市・県別の独自事業ポイント”等を一つの共通システムで運用することで事務負担が軽減され、新規参入もしやすくなります。

そして、自治体や加盟店にはシステムに蓄積されるデータが還元され、事業の効果検証やマーケティングデータの獲得等も図ることができます。



## II-まとめ

地方の消費域外流出は、今後も県外大手企業の進出やネット消費の増加等で、年々増加していくと予想されます。その減少に少しでも歯止めをかけるため、そして地域を未来永劫に存続させていくため、有効な政策の実施が必要であると考えます。

そのような状況の中、J-Coin Pay 等の汎用性の高いキャッシュレス決済を活用した域内消費循環政策は、税収増加に繋がる有用な一つ的手段ではないでしょうか？ また、デジタル地域通貨の導入により、域内事業でのビッグデータが得られれば、提言①の解決策の一つとなるのではないのでしょうか？

今後もキャッシュレス決済は更なる普及が見込まれており、残念ながら、その流れを避けては通れません。一方で、今後 J-Coin Pay より加盟店手数料が安く、回収期間も短いキャッシュレス決済が登場する可能性も十分にあります。そこで行政と連携し、加盟店の費用負担を可能な限り抑制したキャンペーン等の検討も可能と考えます。

繰り返すにはなりますが、特定のキャッシュレス決済を推奨するわけではございませんが『汎用性の高いキャッシュレス決済の導入』や『デジタル通貨を活用した域内消費循環政策』などが津山市の税収増加に繋がる政策として、政策提言委員会は提言いたします。

## ■ あとがき

本提言書では、津山が誇る四季折々の豊かな魅力を最大限に活かした観光施策をはじめ、地域経済の活性化を目指した具体的な提案を数多く盛り込んでおります。春には、美しい花桃の植樹を通じて、訪れる人々に癒しと新たな景観を提供し、津山の自然美を広く発信することを提案いたしました。夏には、地元の伝統行事である花火大会において駐車場を有料化することで、収益を地域の発展に還元し、観光事業の持続可能性を高める方策を提案しています。秋には、津山の歴史と自然を身近に感じられるウォーキングイベントを開催することで、健康志向の高まりを取り入れながら津山の名所を新たな視点で楽しめる機会を創出することを目指しました。そして冬には、津山の豊かな食文化を象徴する「お鍋グランプリ」の開催を提案し、寒い季節にふさわしい地域の味覚を通じて市内外からの観光客を呼び込みます。

これらの施策は、津山が持つ四季折々の特色や地域資源を一層際立たせることで、多くの人々に津山の魅力を再認識していただき、観光事業のさらなる発展につなげることを意図しております。また、観光施策にとどまらず、地域経済を下支えするための税収増加策の必要性や、現代の消費スタイルに対応したキャッシュレス決済の普及を通じた域内消費の促進といった、具体的かつ実行可能な提案も提示しました。これにより、津山が抱える経済的課題に対応するとともに、将来を見据えた持続可能な地域成長を実現する基盤を整えることができると考えています。

私たちは、この提言書に記載された施策が実現することで、津山が本来持つ潜在的な魅力を余すところなく引き出し、観光産業をはじめとした地域全体の発展に寄与することを強く期待しています。また、この提言書が、津山市民が一致団結して地域の活性化に取り組むための羅針盤となり、持続可能な発展を目指す大きな一歩となることを願っています。津山の未来を切り拓く鍵は、地域に暮らす一人ひとりの協力と熱意にあると信じています。

最後に、この提言書の作成にあたり、多大なるご協力と貴重なご意見をお寄せいただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。本提言書が、津山をさらに魅力的で活力に満ちた地域へと導く一助となることを祈念するとともに、今後も市民の皆様とともに歩み続ける津山の姿を期待しています。



令和6年度 津山商工会議所青年部  
政策提言委員会 担当副会長 長谷川 大

【担当副会長】 長谷川 大

【委員長】 田中 康嗣

【副委員長】 加藤 正倫 所 憂哉

【担当理事】 岩本 英司 影山 司

【運営幹事】 矢野 優

【委員】 家本 太一 池田 義寛 川井 鉄也 兒玉 竜範 里見 允二

杉本 尚駿 田邊 晃次 東郷 琢磨 潘 市朗 藤原 正行

政岡 孝晃 森岡 洋平 吉川 晋司

【集合写真】



【過去の政策提言書一覧】

1. 平成 29 年 「人口 10 万人維持への挑戦」
2. 平成 30 年 「財政難からの脱却」
3. 平成 31 年 「拠点都市つやまの再興」
4. 令和 2 年 「さくみらい」
5. 令和 3 年 「津山市の人口維持と地域経済の活性化に関する提言」
6. 令和 4 年 「循環と持続～津山を未来へ～」
7. 令和 5 年 「未来予想図～我がまちへの想いと願い～」

津山 YEG 提言書



津山 YEG HP より